

## 2022 年度各学部入学式式辞(第 1-5 回共通)

2022 年 4 月 1-2 日

田中愛治

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはもちろん、このたび入学される新入生を育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

本来であれば、新入生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたかったのですが、コロナウイルスの感染を防ぐため、新入生だけの出席となっています。その点は、たいへん残念に思っております。

今年の新入生は、特別な思いを持って、入学されることでしょうか。この2年間、新型コロナウイルス感染症の拡大というパンデミックに、世界中が振り回されました。本日、入学される皆さんも、高校や予備校などに通うこともままならなかったと思います。皆さんは、そうした辛い思いの中、不安と闘いながら、進学準備をされてきました。皆さんが、逆境をはねのけ、本日の入学式を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。そして、敬意を表します。

私は、3年5ヵ月前の2018年11月に早稲田大学の総長に就任しました。そのうちの2年間は、コロナ・パンデミックの中で早稲田大学を牽引してきました。私たちは、WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルス感染症の拡大を2020年3月11日にパンデミックである、と宣言する3週間前には、これはパンデミックであると考えていました。そのため迅速に対応策を打ち出しましたので、早稲田大学は、日本で最も迅速かつ的確に、コロナ・パンデミックに対処した大学となりました。

早稲田大学は、2020年8月から2021年1月までの間に、教室の空調設備を更新し、すべての教室で1人当たり、1時間に30立方メートルの換気ができ

るように整えました。これにより、昨年度の4月から、7割を目標に対面授業を再開しました。また、昨年7月5日から8月末までに、希望者全員を対象に2回のワクチン接種を実施しました。早稲田大学は、コロナに対して、できる限りのことをしてまいりました。

総長に就任して以来、私は学生の皆さんに「たくましい知性」を鍛え、同時に「しなやかな感性」を育んでもらいたい、と伝えてきました。これは、建学の精神に沿いながらも、新しく早稲田の教育方針を表現したものです。コロナ・パンデミックの経験により、この二つの言葉は、より現実味を帯びて、理解しやすくなりました。

「たくましい知性」とは、どのようなものでしょうか。今日、人類が直面する問題の多くは、答えのないものばかりです。たとえば、世界では地球の温暖化や、ロシア政府軍によるウクライナへの侵略が問題になっています。これらの問題の解決策は、教科書にも専門書にも記されていない、正解のない問題です。コロナ・パンデミックも、誰一人正解を知らない問題の典型でした。このような「答えのない問題に、自分の頭で考えて、自分なりの解決策を考え出せる知性」を私は「たくましい知性」と呼んでいます。コロナ・パンデミックという人類にとって未知の問題を経験した皆さんだからこそ、早稲田で「たくましい知性」を鍛えてもらえると思います。

ただし、未知の問題を自分の頭で考える際には、大学で修める学問が必要不可欠になります。学問とは、人類が文字を発明して以来、約5千年の人類の経験のエッセンスを体系的にまとめたものです。したがって、人類が過去に経験していない問題の正解は、学問の中に記されていないかもしれません。しかし、過去に人類が直面した未知の問題に、どのように人々が挑戦し、解決してきたかは記されています。つまり、答えのない未知の問題に、どう挑戦するのかという方法論が、学問には体系的に示されているのです。ですから、学問を修めることをおろそかにしては、「たくましい知性」を鍛えることはできません。

もう一つの「しなやかな感性」を育むことも大切です。人類には、異なる国籍・民族・言語・宗教・文化・信条を持つ人がいるからです。異なる性別の人

や性的少数者の人々もいます。それらの自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる感性を私は「しなやかな感性」と呼んでいます。

たとえば、ウクライナから早稲田大学に留学に来ている学生たちは、どんなに心細い思いをしているのでしょうか。あるいは、ロシアから早稲田大学に留学して来ている学生たちは、自分の祖国をどのように見つめているのでしょうか。また、他の国の人々に、ロシア人というだけで冷たい目で見られることを心配しているかもしれません。このように、異なる立場にある人に思いを寄せて、それぞれの人々がどんな辛い（あるいは悲しい）思いをしているかを肌で感じられれば、「しなやかな感性」を持っていると言えるでしょう。

「しなやかな感性」を育むためには、自分と異なる人々に敬意をもって接し、理解することが重要です。早稲田大学は、そうした環境を創るために国際化を進めてきました。2019年度までは8,000名を超える海外からの留学生が早稲田で学び、日本で育った4,600名以上の学生を海外への留学に送り出していました。ところが、2020年度はコロナのために、それが途絶えました。「オンライン留学」という新たな形も開発しましたが、十分ではありませんでした。2021年度は、9月から約480名の早稲田の学生が、2回のワクチン接種を済ませ、海外留学に出ました。しかし、海外からの留学生は受け入れられませんでした。

ただ、それらの苦労を通じて、私たちは、コロナ・パンデミックの状況では、立場の弱い人々が、また貧しい国や地域の人々が、より感染しやすく、辛い立場に置かれることを学びました。そうしたコロナによる厳しい状況下で大学生となる皆さんは、より一層「しなやかな感性」を発揮しなければなりません。是非とも早稲田で、「しなやかな感性」を育ててください。

私たちは、そのために必要な教育環境を整えてきたという自負があります。なかでも、グローバル・エデュケーション・センター（GEC）という全学共通の教育センターは、学部の垣根を超えて、すべての学部の学生が履修できる科目を用意しています。そこには「基盤教育」と呼ばれる科目群があります。

「基盤教育」とは、大学で学問を修めるために必要となるアカデミック・ツール、学びのための方法論です。これらのアカデミック・ツールは、社会に出てからも知的な職業では必ず有用なツールとなります。私たちは2011年から13年まで3年間、しっかりと議論をして、「基盤教育」を五つ決めました。

第1は、日本語を母語とする学生に、論理的に日本語の書き方を教える「学術的文章の作成」です。第2は、英語の発話の力を養成する「Tutorial English」と、英語の論理的な文章の作成力を鍛える「AWADE (Academic Writing and Discussion in English)」です。これら論理的文章の作成は、アメリカやイギリスの一流大学でも、大学1年生に“Freshman English”として、必修にしています。アメリカのYale大学は、どんなに優秀な学生に対しても、大学1年次に、英語で学術的文章を書く授業を義務付けています。早稲田のグローバル・エデュケーション・センターは、日本語と英語の双方の学術的文章の作成の科目を、どの学部の学生も履修できるようにしています。

基盤教育の第3は、文系のための数学入門です。「数学基礎プラス $\alpha$ 」とその上の「 $\beta$ 」・「 $\gamma$ 」が用意されています。第4は、「データ科学入門」で、人工知能を用いてビッグ・データを解析する基礎を学びます。その過程で統計学の入門も学べるという一石三鳥のお得な科目です。第5は、情報処理入門です。日進月歩の情報処理の方法論を毎年アップデートしながら、今後のデジタル・トランスフォーメーションに備えられるよう工夫されています。これらの基盤教育と、各学部の特色ある教育が相乗効果を発揮することで、「たくましい知性」を鍛えることができると確信しています。

このような学問を学ぶための基盤教育を受けられる教育環境を整備しているのは、現在の日本では早稲田大学だけです。また、世界的に見ても、これだけ整備している大学は数少ないと自負しています。このような全学共通の基盤教育はグローバル・エデュケーション・センターで学べます。そして、皆さんは自分の学部で、さらにその上の専門分野を学習してください。そして、自分にとっては未知の問題の解決策を自分の頭で考え、それを論理的に他の人に伝えられなければなりません。

そのためには、早稲田大学でしっかりと学問を学ぶことが必要となります。それにより、卒業して社会に出てから活躍できます。むろん体育各部の部活動、サークル活動に力を入れることも、学生生活としては貴重でしょう。さらに、就職のため、大学1・2年生のうちは、インターンシップではなく、オープン・カンパニーという企業の案内や各業界の紹介などを学ぶ機会に参加することや、キャリア教育の授業を受講することも意味があります。しかし、早い学年からインターンシップをたくさん経験すれば、良い企業に就職できるという考え方は、もう時代遅れです。これからは、大学の授業でしっかりと学問を学び、その上で、機会があれば本格的なインターンシップを3年生の夏休みや冬休みで経験することが大切です。1年生・2年生のうちから授業そっちのけでインターンシップに力を入れていると、就職してから必要となる「たくましい知性」を発揮できなくなります。皆さんが、国際的に他国の方々と遜色ない形で、人類社会に貢献できるグローバル・リーダーになるためには、まずは大学で学問をしっかりと学ぶことが重要です。

早稲田大学で私たちが考えているグローバル・リーダーは、必ずしも国際連合などの国際機関や、外資系の国際企業で仕事をする人だけではありません。国内や海外を問わず、どのような町や村にいても、どのような規模の企業や組織に所属していても、皆さんが「グローバルな視野に立って、人類社会に何らかの形で貢献する」と考えて仕事をすれば、皆さんは自ずとグローバル・リーダーになります。

また、早稲田大学のことも知っていただきたいと思います。実は、昨年、慶應義塾の塾長になられた伊藤公平先生とは親しくお話ししていますが、彼が就任してすぐに早稲田を訪ねていらしたときに、「早稲田がコロナ対策で最も優れていたから、どうしてあれだけ迅速に的確に対策を打ち出したのか、教えていただきに来たのです。福澤諭吉先生は『自分より優れている者からは学べ』とおっしゃっていますので。」とおっしゃいました。数日後、私が「慶應義塾の学生も卒業生も皆さん、愛校心がとてもお強いんですね。どうしてそのように学生を育てられるのですか。」とかがいましたら、「慶應では新入生全員に『福翁自伝』を配っているのです。」とお答えになりました。私もその点は慶應義塾に習って、皆さんに『大隈重信と早稲田大学』という新書を、今年度の新入生からお渡しすることに致しました。是非、読んで、早稲田と創立者の大隈重信のことを学んでください。

最後に、早稲田大学は、学生の求めることは、ほぼ何でもできるような環境を整えています。学問・研究でも、体育各部の競技スポーツでも、サークル活動でも、ボランティア活動でも、様々な学生のニーズを満たすような多彩な環境があります。ただし、真剣に学問を学ぶことも忘れないでください。

ですから、皆さんは、早稲田では思う存分、勉強し、自分のやりたいと思う活動にも力を入れて、充実した学生生活を送ってください。4年後には、より逞しくなって、よりしなやかに輝いている皆さんを、今よりも輝いている早稲田大学が、送り出したいと思います。

To those incoming students who prefer English, I would like to welcome you briefly in English.

Congratulations on your admission to Waseda University, and welcome! Waseda offers you an environment in which you can thrive and excel.

I hope you will let your curiosity roam while you are here, and become an intellectually broader and more creative person than when you arrived.

I know you will work hard, but it is vital to take care of your emotional and physical health as well.

Enjoy rewarding activities, and invest in nurturing friendships.

Best wishes for your studies and student life at Waseda!

新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます！